

みなみかぜ 6月号

[図書館 HP] <http://www.minabe-h.wakayama-c.ed.jp/libHP/top.html>

読書週間が終了しました。図書館クイズではたくさんの生徒が参加してくれました。また11月に読書週間がありますので、今回、抽選がはずれた人や、お目当ての雑誌がもらえなかった人は次回も挑戦してください☆

さて、梅雨に入ってジメジメ&ムシムシ暑い日が続いています。図書館では『雨の日～読書 Time～』等、季節の展示や図書委員のオススメの本の展示を行っています。読んで楽しい本、見て楽しい本、図書館には色々な本があります。気分転換をしに図書館へ来てくださいね☺

雨の日～読書 Time～

—雨の日にこんな本はいかが?—

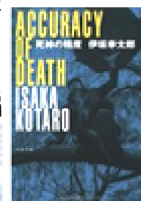
『幸せのしずく World of Water Drops』浅井美紀 扶桑社

この本は身近にある“小さな世界”を写した写真集。小さなアリと小さな雫。人間にはあまりに小さすぎて見えない世界。アリにとってはいつもと変わらない世界なのかな？初めて見たときは美しすぎて感動しました。癒しの一冊です。



『死神の精度』 伊坂幸太郎 文藝春秋

死神を職業とする千葉さん。千葉さんが仕事をするときは必ず“雨”が降る。人の死を見定めるのが死神の仕事。だけど、無意識に対象者の意思を尊重してしまう。クールなのか人情家なのか…。物語は短編ですが最後に繋がりがあり、とても読みやすく面白いです。死神の魅力にきっと引き込まれます☆



今月の
図書委員さんのオススメ本
※カウンター前に展示しています※

『世界から猫が消えたなら』 川村元気 小学館

ある日、余命宣告された青年の前に悪魔が現れ、一日命を延ばすことと引き換えに、この世から何か一つ消すことを持ちかけられる。そんな青年が物を消す度に気付かされる大切な人やかけがえのないもの。普段、私たちが当たり前に思っている“もの”の大切さに気付かされる物語です。

『幸福な食事』 瀬尾まいこ 講談社

ふつうの家族とはちょっと違う家族をもつ主人公の温かくてちょっぴり切ない物語。不思議な考えや展開も出てきますが、ほんわかとした雰囲気です。不思議な考えや展開も出てきますが、ほんわかとした雰囲気です。あたり前の日常を振り返る、いい機会になると思います。

『もし高校野球のマネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』 岩崎夏海 新潮社

この本は数年前にベストセラーになった本です。ある日突然、野球部のマネージャーになった主人公がある一冊の本と出会い、主人公と野球部が力を合わせて甲子園をめざす青春物語です。主人公が部員を引っ張っていく姿にとっても感動しました。ぜひ、読んでください。

『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』 七月隆文 宝島社

このお話はファンタジーで、現実と違った雰囲気の恋愛物語。一目惚れした女の子と交際に発展した主人公。ある日、その彼女から「あなたの未来を知っている」と告げられる。主人公とその彼女が繰り広げるファンタジーな世界にきっと感動させられます。